

「資料3」 を読んで

自分が資料3を選んだ理由は2つあります。1つ目は自分の知り合いもリンゴを育てているため、2つ目はリンゴの木は横手市の木になっているからです。読んだ感想としては、後藤加寿子さんは大館市の生まれで地元が横手ではないのに自分たちから見えないところで横手を支えてくれていてとてもありがたいと思いました。自分も彼女のように地域を支えるためにはどういうことをすればいいのかを考えさせられました。自分は工学部なので卒業後は工業系の仕事に就きたいと考えていますが、地元の横手に限らずさまざまな地域に貢献できればと思っています。そして、人々から「ありがとう」などの感謝の言葉を言ってもらえるように成長していきたいと思いました。

農家の方々だけでなく、研究員の方のたゆまぬ努力があって、私たちは美味しい果物を食べることができるのだな、と思いました。秋田県の中でも横手市は、雪害に悩まされる地域なので、管理もより一層大変だと思います。中学生の時、記事に書かれている果樹試験場のイベントに参加したことがあります。果樹に関するクイズのスタンプラリーをしたり、スギッチがプリントされたりりんごがもらえたりと、とても楽しいイベントだったのを覚えています。日々、努力を重ねる方たちへの感謝の気持ちを忘れず、私自身も大学の友達に沢山の努力が詰まった横手の果物の美味しさや魅力を知ってもらえるように、PRしていきたいです。

近年、大雪によってたくさんの被害が見られてきた。特に農家の方に大きな影響を与えてしまったのではないだろうか。そんな中で、雪害を防ぐために取り組みを行っていることを知った。果樹園の土地の状況で除雪が難しいことや、農家の高齢化による担い手不足で枝折れを防ぐことが課題となっている中でこのような取り組みはすごいなと思った。また、記事に書いているようにこのような取り組みを通して、若者が果樹農家へ興味を持ってもらえたらいいなと感じた。少子高齢化が進み、若者の担い手が少なくなっている中で、若者が興味を持ってくれるようなきっかけを作ること必要だと考える。雪に強い産地を作り、また若者が興味を持ってくれるようなきっかけを作ることによって地域の活性化にもつながるのではないかなと感じた。